

経営比較分析表（令和4年度決算）

兵庫県 神河町

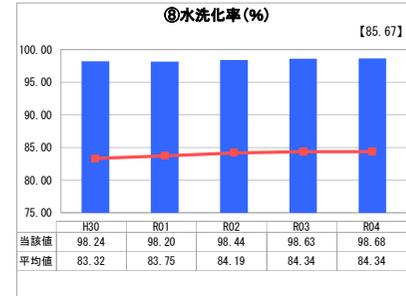
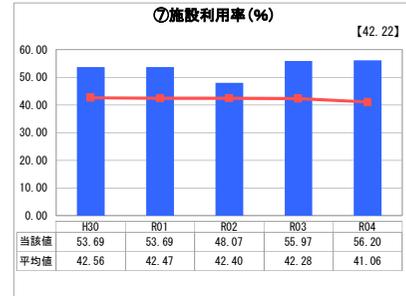
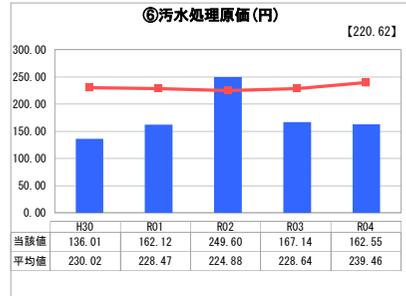
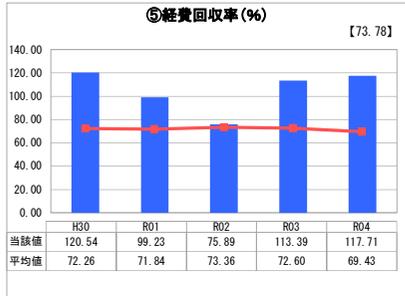
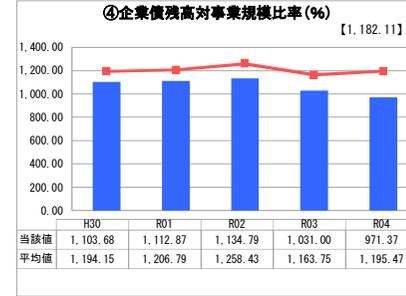
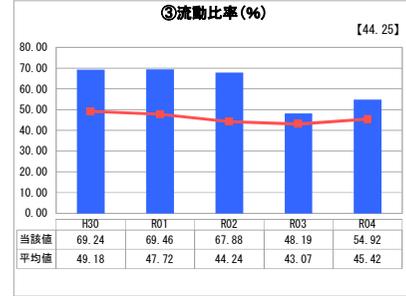
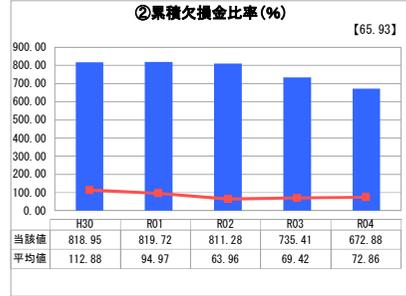
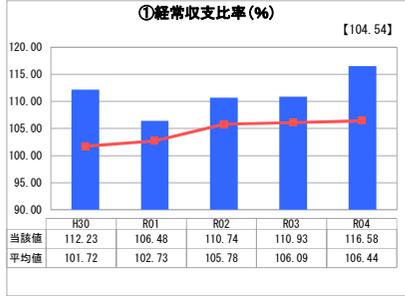
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	48.57	58.20	81.65	4,400

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,661	202.23	52.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,145	4.56	1,347.59

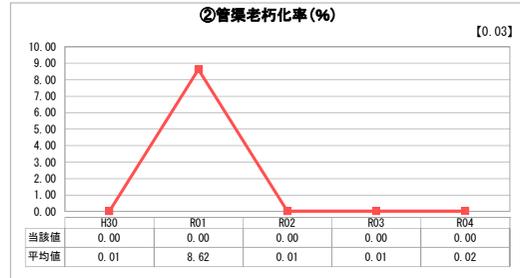
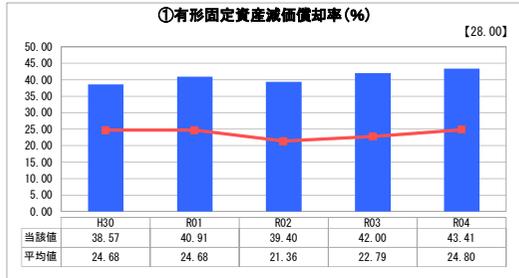
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

処理区内の一施設の統合が完了し、水洗化人口が一時的に増加したため、使用料収入の増額につながり、経常収支比率が100%を超えた良い状況が続いているが、処理区域内の人口減少の影響が強く、今後は使用料収入が減り、一般会計からの繰入金に依存した運営になっていくと思われる。

累積欠損金比率は、直近年度では当期純利益を確保できているため徐々に下がっているが、依然として高い水準にある。今後も内部留保資金の運用に留意しながら引き続き累積欠損金の解消に向けて経営の健全化に努めていく。

企業債務高対事業規模比率は、類似団体と比べ、徐々に減ってきており、償還が順調に進んでいる。一施設の統合が完了したことで、施設利用率が若干ながら上昇傾向にあるが、人口減少とともに徐々に低下していくと思われる。

2. 老朽化の状況について

供用開始から20年以上が経過し、令和2年度ですべての施設の長寿命化工事が完了し正常に稼働している。管渠や処理場建物は現在のところ特に問題はないが、マンホールポンプ及び中継ポンプの機械装置の修繕が多くなっている。

今後、処理区内の残りの施設統合を計画通り実行し、効率的で持続可能な事業運営を実施する。

全体総括

当町の下水道事業は、合併浄化槽エリアを含め、全町で生活排水処理施設が整備されており、水洗化率は99%と高い数字で、住民の皆様には快適な生活環境を提供しているが、その反面、下水道使用料は水道料金とともに県下トップクラスであり、大きな住民負担を強いている。

下水道事業を将来にわたり安定的に継続していくため、経営戦略に基づき、健全な運営に向けてコスト意識の高揚、経費の削減、未収金収納率のアップ、水洗化率のアップに努めていく。また、収支計画を単年ごとに見直し、下水道使用料の改定時期を検討していく。

少子高齢化が進み人口減少が続く中、近隣市町との広域化、共同化の検討等、他の自治体の事例も参考にしながら、町民にとってより良い下水道事業のかたちを総合的に検討する。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。